

『持続的局所抗菌薬灌流療法施行患者における血中ゲンタマイシン濃度と腎障害の関連性および影響を与える因子の調査』

【目的】

持続的局所抗菌薬灌流（以下 CLAP）療法は、骨や筋肉などの局所に高濃度の抗菌薬を灌流させる治療法で、従来では治療が困難な骨軟部組織の感染症において有効性が示されています。抗菌薬は一般的にゲンタマイシンを使用し、この抗菌薬を静脈内注射する場合は副作用を防止する目的で血中濃度を測定し投与量を調節します。CLAP 療法では抗菌薬を静脈内注射しませんが一部が血液中に移行することがあり、腎障害などの有害事象が発生することがあります。CLAP 療法は近年確立された治療法であり、抗菌薬の血中濃度や腎障害に関する研究が多くありません。そこで本研究では、有害事象を未然に防ぐことを目的として血中ゲンタマイシン濃度と腎障害の関連性および影響を与える因子について調査をします。

【期間】 2026年3月9日～2027年1月31日

【方法】

<対象となる患者さん>

2022年1月から2025年12月までに当院にてCLAP療法を施行した患者さん

<研究に用いる試料・情報の種類>

試料：無し

情報：患者背景（年齢・性別・体重）、生化学検査（血清クレアチニン値等）、細菌学的検査、血中ゲンタマイシン濃度、併用抗菌薬 等

◎研究への参加について

この研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、遠慮なく研究責任者にお伝えください。たとえお断りになっても今後の治療において不利益を受けることはありません。

この研究について、心配なことや、わからないことがあれば、いつでも遠慮なく下記連絡先までお問い合わせください。また、ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産権の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出ください。

独立行政法人地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター

〒573-8511 大阪府枚方市星丘 4-8-1

TEL (072) 840-2641 (代)

所属・職名 薬剤部 ・ 主任薬剤師

研究責任者 奥田 直之